

総合診療

科目責任者 志水太郎
学年 6学年

I. 前文

本科目では第4学年時に履修した総合診療の全般の内容を基礎に、本講義ではさらに一步踏み込んだ内容として、また来るべき医師としての第一歩として特段現場で重要となる急性期の生物医学的観点から、総合診療の視点からの現場思考を学ぶ。

II. 担当教員

教授 志水太郎 総合診療医学

III. 学修の到達目標

- 1) ショックの鑑別と身体所見の有用性を理解し、実践できる。
- 2) 病態生理と実学を結び付けて考えることができる。

IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（5時間）：第4学年時の履修事項

事後学習（10時間）：第5学年時の履修事項

課題図書、及びこれまで習った医学知識を復習すること。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- （1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他 空欄：該当なし）

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	7	28	火	6	これで万全！ショックレクチャー	志水太郎	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。

カテゴリ試験の成績をもって評価する。

VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

必修-7- A- ⑤

総論（V病因，病態生理）-7-A～F

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポート等）について質問があれば、必要に応じて適宜受け付ける。